

女性と男性がお互いを尊重し、
個性と能力を発揮することのできる社会づくりをめざして！
～ 女性が変わる 男性が変わる ～

豊岡市男女共同参画プランの見直し作業を進めています

豊岡市では、現在、「豊岡市男女共同参画プラン」の見直しを行っています。これは少子高齢化の急激な進展など大きな社会情勢の変化や、市町合併による市域の拡大などへ対応するため、平成12年に旧豊岡市で策定した計画を、新「豊岡市」の実態に即し、より充実した内容に改めるものです。

平成18年6月末の策定を目途に、現在、庁内に策定委員会を設置し、調査・研究を進めるとともに、各界各層の代表者からなる「豊岡市男女共同参画プラン推進懇話会」を設置し、専門的な視点からの提言もいただいています。

今月号では、懇話会座長の三輪昌子さん(生活評論家)にプラン見直しの考え方についてお聞きするとともに、今年7月に実施した「男女共同参画社会実現のための市民意識調査」の集計結果などを紹介します。

男女共同参画は元気な「まち」の希望



豊岡市男女共同参画プラン
推進懇話会座長
三輪昌子さん

毎日新聞社記者を経てフリー(生活評論家)に。男女共同参画、人権、消費経済、高齢化、環境問題を中心に生活者の立場から執筆・講演などで活躍中。兵庫県男女共同参画推進協議会長などを務める。

思いを一つにして一歩を踏み出すとき

「男女共同参画社会の実現は、21世紀の日本社会を決定する最重要課題」を掲げた「男女共同参画社会基本法」が公布されたのは1999年6月。その1年後に、旧豊岡市で「豊岡市男女共同参画プラン」がスタートしました。それから5年、プランは折り返し点にさしかかりました。この間、2002年には兵庫県「男女共同参画社会づくり条例」も施行されました。そして、この春、1市5町が合併して、兵庫県全体の約8パーセントを占める市域と北近畿最大級の人口を持つ新「豊岡市」が誕生しました。

今こそ、思いを一つにして「男女共同参画社会」へ更なる一歩を踏み出す時です。

社会的性別に起因する人権侵害は男女に影響を及ぼす

「基本法」も、県の「条例」も、基本理念の最初に「男女の人権尊重」を挙げています。わざわざ「男女」と強調しているのには理由があります。私たちの日常には、生物としての性別とは別に、社会的につくられた性別(ジェンダー)が存在しています。つまり「男だから、女だから」という枠組みで、個人の生き方を決めつけてしまう考え方がです。それぞれの持つ資質や能力を尊重する前に、社会的

多色刷りの「まち」づくりが鍵

多くの課題を抱えるこれらの日本を、元気に子孫に手渡すには、男も女も各人が対等な人権を持つ「オンライン」の人材として、自立し連帯し、モノクロでなく、多色刷りの「まち」づくりに取り組むことが鍵となります。「男女共同参画は日本社会の希望」これは、男女共同参画社会の将来像を検討した国の報告書の標題ですが、そのまま、豊岡市にも当てはまる大事なキーワードです。

男女共同参画社会実現のための市民意識調査

集計結果

家庭・職場などにおける男女平等に関する市民の意識や実態を把握し、本市の男女共同参画プラン策定のための基礎資料とするため、平成17年7月、「男女共同参画社会実現のための市民意識調査」を実施しました。

調査は、市内在住の満20歳以上の男女2,000人を無作為抽出して郵送により実施。回収数は947件(有効回答数938人)で回収率47.4%(男43.6%、女55.6%、無回答0.7%)でした。

* 集計結果はすべて、小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の合計が100.0%にならないことがあります。

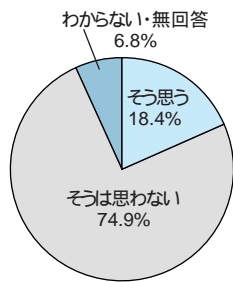
男女の役割分担意識

「男は仕事、女は家庭」と思いますか？(グラフ1)

女性是否定的、男性は肯定的

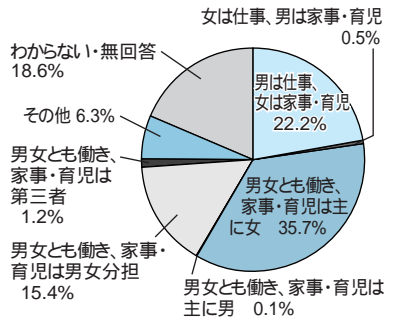
「そう思わない」と回答した人が全体の7割を超えています。性別では、女性の方が性別役割分担に否定的であるのに対し、男性は肯定的な考え方が多い結果となっています。肯定的な理由で多いのは、「男は仕事、女は家事・育児に適している」という回答で、否定的な理由で多いのは、「それぞれの個性を發揮すればよく、固定する必要はない」という回答です。

グラフ1



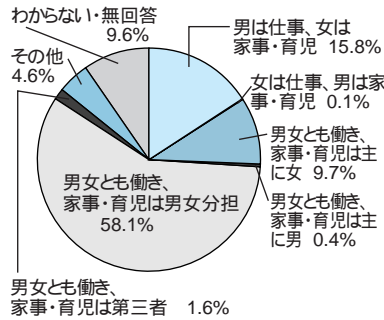
家庭での男女の役割分担は？
家事・育児の現状は「主に女性」、理想は「男女分担」
現状(グラフ2)では、「男女とも働き、家事・育児は主に女」と回答した人が最も多く、約36%あります。

グラフ2



一方、理想(グラフ3)としては、「男女とも働き、家事・育児は男女分担」と回答した人が最も多く、約58%あります。

グラフ3



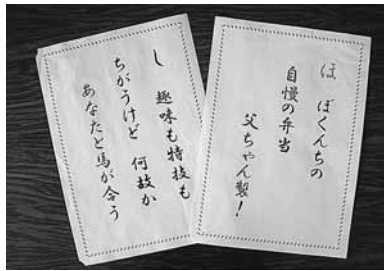
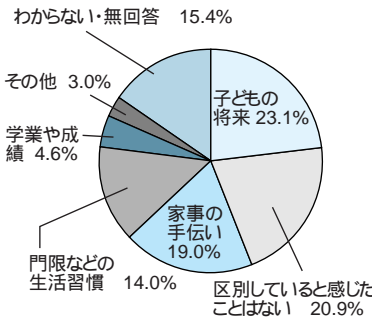
ただし、男性では、「男は仕事、女は家事・育児」や「男女とも働き、家事・育児は主に女」と回答した人も多く、男性は女性に仕事と家庭の両立を求めている傾向がうかがえます。

子育て感

子育てにおいて「男の子と女の子を区別している」と感じる時は？(グラフ4)

「子どもの将来」や「家事の手伝い」の時に「子どもの将来」と回答した人が約23%、「家事の手伝い」と回答した人が19%あります。一方、「区別していることを感じたことがない」と回答した人も約21%あります。

グラフ4

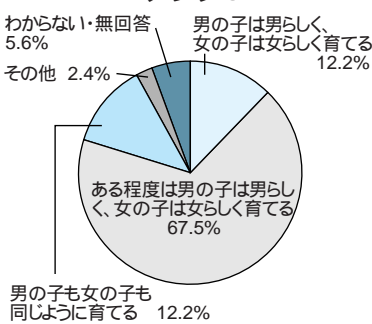


女性たちのまちづくり会議「夢ぱれっと」の会員の皆さんが作成した「男女共同参画カルタ」

子どもをどのように育てるべきか？(グラフ5)

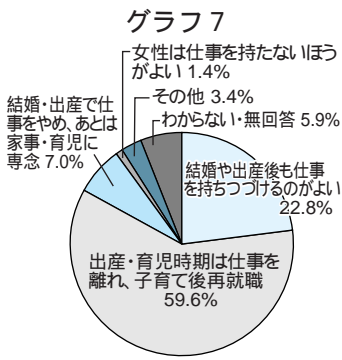
「ある程度は男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」と回答した人が6割を超え最も多く、次いで「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」と回答した人が多く、全体の8割程度の人が子育てにおいて性別の役割分担を意識しています。

グラフ5

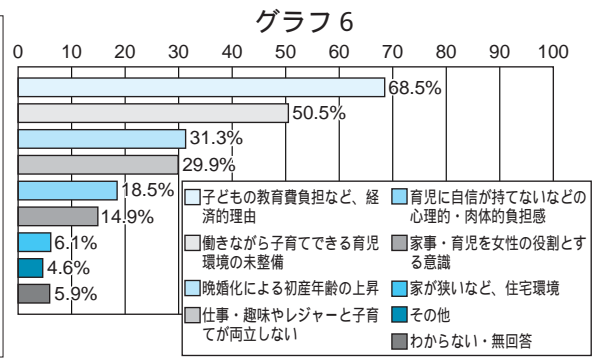


少子化の原因は？(グラフ6は次ページ記載)
「経済的理由が約7割」と回答した人が全体の約69%と最も多く、次いで「働きたがら子育てできる育児環境の未整備」と回答した人が約51%あります。

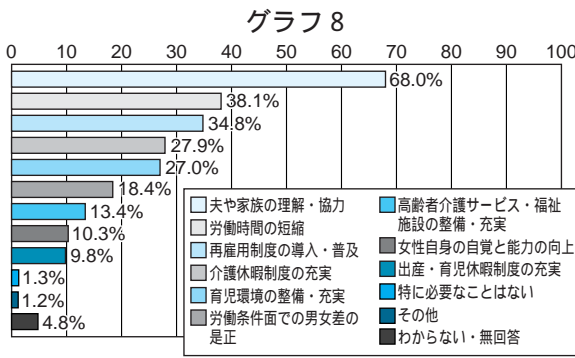
「出産・育児時期は仕事を離れ、子育て後再就職」と回答した人が約60%、「結婚や出産後も仕事を続けるのが



女性が仕事を持つことについて、子育て後再就職が約6割

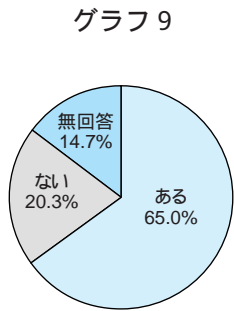


「夫や家族の理解・協力」68%、「再雇用制度の導入・普及」約38%、「育児環境の整備・充実」約35%となっています。年代別では、20歳代では「出産・育児休暇の充実」、30・50歳代では「再雇用制度の導入・普及」、40・60歳代では「育児環境の整備・充実」、「再雇用制度の導入・普及」と回答した人が多いです。



女性の就労促進策について、夫や家族の理解・協力が約7割あり、約23%「よい」と回答した人が約23%あります。

「ある」と回答した人が全体の6割を超えています。その理由は、「男だからがんばることを強要される」、「仕事の責任が大きい、仕事がないと当たり前だと言われる」



男性の人権も考える必要あり、男もつらいと感じることがありますか？



男女共同参画社会の実現に向けて11月から市内6会場でセミナーを実施

男女共同参画社会とは？

「男女共同参画社会」とは、「女性も男性も互いにその人権を尊重しあい、意思決定を含む対等な社会参加が保障され、性別にかかわらずその個性と能力を平等に発揮できる社会」です。

1999年6月、国会で成立した「男女共同参画社会基本法」には男女共同参画社会をつくらっていくための基本理念として、次の5本の柱が掲げられています



男女の人権の尊重

男女の個人としての尊厳を大切にしましょう。男女の差別をなくし、「男」、「女」である以前に一人の人間として、能力を発揮できる機会を確保していきましょう。

社会における制度または慣行についての配慮 固定的な役割分担意識にとらわれず、男女がさまざまな活動ができるよう、社会の制度や慣行のあり方を考えていきましょう。

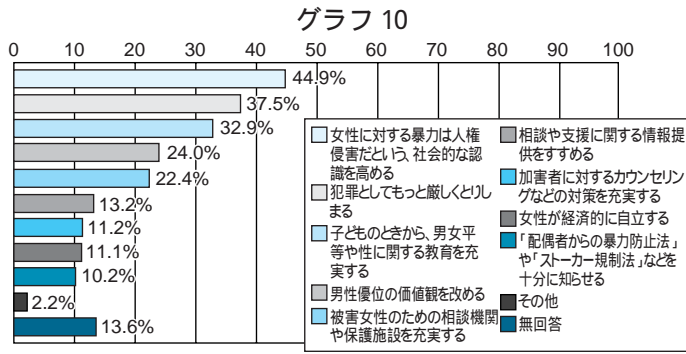
政策等の立案および決定への共同参画 男女が社会の対等なパートナーとして、いろいろな方針の決定に参画できるようにしましょう。

家庭生活における活動と他の活動の両立 男女はともに家族の構成員。お互いに協力し、家族としての役割を果たしながら、仕事や学習、地域活動ができるようにしましょう。

国際的協調

男女共同参画社会づくりのために、国際社会とともに歩むことも大切です。他の国々や国際機関とも相互に協力して取り組んでいきましょう。

調査では、配偶者などからの性的虐待の有無についても質問しました。「あった」と回答した人で、最も多かった虐待は、「大声でどなられる」で、



女性に対する暴力をなくすには？ (グラフ10)
人権侵害の社会的認識を高める

「妻子を養うのは男の責任であると言われる」の順に回答が多く、男性の人権も尊重されているとはいえないという結果も表れています。

「施設・サービスの充実」と女性の積極的な登用」を
 「保育施設・サービス、高齢者施設・介護サービスの充実」と回答した人が46%で最も多く、次いで「政策・方針決定の場に積極的に女性を登用する」と回答した人が約41%です。性別で見ると、男性は「政策・方針決定の場に積極的に女性を登用する」、女性は「保育施設・サービス、高齢者施設・介護サービスの充実」と回答した人の割合が最も高いです。

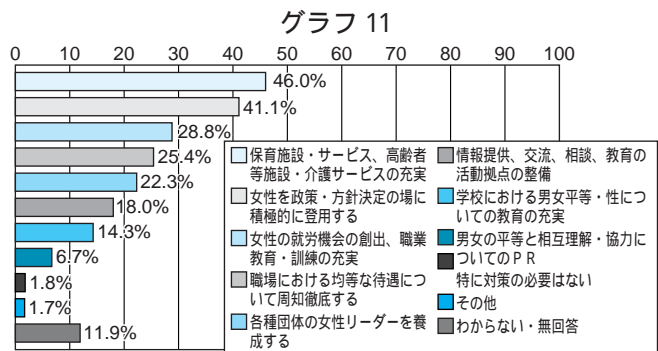
男女共同参画社会の実現
 男女共同参画社会を実現するために市が力を入れるべきことは？ (グラフ11)

次いで「何を言っても無視され続ける」「交友関係や電話を細かく監視される」です。また、「女性に対する暴力をなくすために必要なことは」の質問には、「暴力は人権侵害だ」という、社会的な認識を高める」が最も多く、次いで「犯罪としてもっと厳しく取り締まる」「子どものときから男女平等や性に関する教育を充実する」となっています。

【問合せ】
 企画課男女共同参画推進係
 ☎ 23・1111



市総合計画審議会や市行政改革委員会では、積極的に女性の登用を図っている



私が思う「男女共同参画社会」



持っている豊かな個性をお互いに認め合い、みんなが生き生きと生活できる地域社会づくりを目指したいですね。地道な活動の中から、地域が見え、新しい文化が芽生えてくると確信します。
 (夢ばれっと 川見祐枝さん)



男性保育士はまだ少なく珍しいですが、子どもが大好きな気持ちは男も女も同じです。性別に関係なく、お互いのよいところを出し合い、みんなで助け合いながら保育できる環境づくりが大切だと思います。
 (合橋保育園保育士 松田裕也さん)



総合学習の時間に弁当作りに挑戦しました。初めて作ったほうれん草の胡麻和えの味が濃くなってしまったなど、お母さんの苦勞が身にしみました。結婚したら、家事、子育てを分担してやっていければと思います。
 (森本中3年 田中 瞭さん)



男性の皆さん、男性らしく人に優しく生きていますか？女性の皆さん、女性らしくたくましく生きていますか？「男女共同参画社会」という言葉が当たり前になり、必要のない時代になればいいと思います。
 (イブネットたじま 上田直子さん)